

平成30年度 第2回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	平成31年3月2日(土) 10時00分～11時30分
場 所	松戸市立博物館 会議室
出席者	<p>委員 水嶋 淳一 委員 岡田 啓峙 委員 谷鹿 栄一 委員 百田 清美 委員 濱島 正士 委員 佐藤 孝之</p> <p>(欠席委員)</p> <p>委員 佐藤 祐介 委員 山口 恵理子 委員 安蒜 政雄 委員 佐藤 孝之</p> <p>(事務局)</p> <p>教育長 伊藤 純一 生涯学習部長 平野 昇 博物館館長 望月 幹夫 博物館次長 堤 和子 館長補佐 山田 尚彦 館長補佐 染野 寿郎 主幹(学芸員) 青木 俊也 主任主事 渡辺 宏一</p>
議 題	<p>(1) 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想について(答申)</p> <p>(2) その他</p>
経過及び概要	<p>生涯学習部長挨拶 教育長挨拶 協議会会長挨拶 議事 博物館館長挨拶</p>
公開・非公開	公開 (傍聴者 0人)
配布資料	<p>会議次第 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について(答申案) 松戸市立博物館 今後の事業計画(案)</p>

【議 事】

(1) 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想について (答申)
事務局から、答申案について説明した。

委員A) 答申案の参考資料、2-(1)-(ア)に、「こどもたちの団体利用が増え」との文言があるが、具体的にどのような団体利用が増えているのか。

事務局) 授業等の一環として、小学校の団体利用が増えている。

会 長) 4つの項目に分類し、松戸市としての役割として予算措置を願いたい。特に、専用駐車場がなく、館へのアクセスが不便であることについては、解決に向けての取り組みを願いたい。

委員A) 今回の構想では、子育て世代、家族連れを主要なターゲットとしている。そのため、「どうして、子育て世代をターゲットにしようと考えたのか、或いはどのような活動を提供したいと考えているのか」を、特記してはどうか。

「子育てにおいて重要となるのは、親子揃っての体験である」という考え方を別項目として記載すると、「(仮称) こども歴史博物館」の目的が明確になると考える。

「博物館でこれから必要となる能力～」という部分も、もっと掘り下げて記載して欲しい。

子どもの団体という視点について、「放課後児童クラブ」「子ども会」「ボーイスカウト・ガールスカウト」など、学校以外の団体が果たす役割が大きくなっている。博物館として、学校以外の団体と、より連携を深める意思があることを記載して欲しい。

会 長) 学芸員は、今後とも7名という人数を維持するとともに、「(仮称) こども歴史博物館構想」に伴って、増員を図ることも松戸市として検討して欲しい。

委員B) (3)について、現在、関宿城博物館においても「昔の暮らし展」を開催しているが、大変好評な様子である。子どもたちが、父母、祖父母と一緒に体験をしている姿が多く見られ、改めて重要であると感じている。

委員A) 子ども達は、自分たちが体験したことを誰か大人に聞いて貰って共感して欲しいと思っている。体験に寄り添う人を付けられると、子ども達の学習効果がより高まると考えられるが、この点はどうか。

事務局) 平成31年度の企画展「こどもミュージアム」においては、インストラクターを3名配置することを予定している。

委員C) 「検定制度」「師範制度」などは、とても良いアイデアと考える。現状実施している「小学生学芸員」をより制度化することを検討して欲しい。また、「実物資料に触れる経験」という部分も是非取り入れて欲しい。

委員D) 博物館は、資料を「見るだけ」で「触ってはいけない」イメージがあり、子どもに「触らせる」「使わせる」という経験をさせて欲しい。

委員C) インストラクターについては、育成のビジョンも示して貰えると良い。博物館友の会では、長年に渡ってボランティアで博物館の活動を支援している。ボランティアを育てる視点を持ち、積極的な指示出しをして欲しい。

会長) 博物館は、インストラクターの育成体制はどのようになっているか。

事務局) インストラクターは、時間の長い研修を実施する。

委員B) 小学校のほか、保育園・幼稚園の利用状況を伺いたい。

事務局) 主として保育園の団体利用があるが、保育園の子ども達にとって、展示を理解することは難しいので、大体は堅穴住居の利用に留まっている。

委員B) 「(仮称) こども歴史博物館」が実現することで、期待できる変化はあるか。

事務局) 小学生未満の子ども達に向けても、体験して楽しいメニューを用

意したいと考えている。

委員B) 千葉県立現代産業科学館においても、小さな子ども達に向けて、「折り紙」の体験コーナーを設けたことがある。「折り紙」は、科学とは直接リンクしないが、小さな子ども達が親御さんや兄弟たちと楽しめるメニューを用意することそのものが大切と考える。

会 長) 学校教育の歴史と、博物館の郷土の歴史の繋がりをどのように教えていくのか。

委員E) 松戸市では、小学校3年生の社会科の副読本として「のびゆく松戸」という教材が用意されている。この副読本学習の一環として、「昔のくらし探検」の団体見学を実施しているので、この教材が教科書の歴史と、郷土の歴史を繋ぐための非常に良い役割を果たしている。

委員D) (4)の「こどもが親と一緒に勉強していくための教材がない」について、博物館として、どのように考えているのか。

事務局) 以前からの課題であり、やり方は色々あるが、ルーズリーフ形式のような、少しずつ積み上げていくような教材が作れないかと考えている。

委員C) 先程の「のびゆく松戸」は、親子で松戸の歴史を学ぶ切掛け作りの教材として、大変良く出来ている。ぜひとも、博物館に設置したり、販売したりできないか。

大人が読んでも面白いので、「のびゆく松戸」は繋ぎの教材としての役割を十分に果たすことが出来るものと考えている。

事務局) 現時点では、既に図書コーナーに設置しているが、積極的な告知はしていないので、今後アピールしていく必要があると考える。

会 長) 「(仮称) こども歴史博物館構想」を切掛けとして、博物館と社会教育課の連携を深め、文化財保護についてより積極的に取り組んで欲しい。

会 長) 「(仮称) こども歴史博物館構想」について、協議会からの意見は以上とする。事務局にて意見を取りまとめていただきたい。

(2) その他について

事務局より、協議会からの答申を頂いた後、「(仮称) こども歴史博物館構想」については、平成31年度以降に基本計画を策定していく。